

≡ オープンソースCMS ≡

Drupal



まるわかり
ハンドブック



まえがき

本書をお手に取ってくださり、ありがとうございます。Drupal（ドゥルーパ
ル・ドルーパル）は 2001 年に公開された歴史のあるオープンソース CMS で、
海外では有名で利用者も多いですが、日本ではまだまだ知名度が低く、日本語
の情報も少ないです。そんな Drupal を日本でももっと盛り上げていきたい！
Drupal をもっといろんな人に知ってほしい！ という思いで、本書「Drupal ま
るわかりハンドブック」の製作をはじめました。

「Drupal って何？」「特徴は？」というよくいただく問いに回答していく形
で、読み進めていくと「なんとなく Drupal がわかるようになる」ことを目指
して執筆しています。ぜひ最後まで読んでいただき、この本がみなさんにとっ
て Drupal を始めるきっかけになれば、これほど嬉しいことはありません。

対象読者

本書を読み進めるにあたっての事前準備や Web 開発の知識は一切不要です。
マーケター、サイト制作者、IT 担当者、開発者など、どなたでも読んでいただ
ける本になっています。

- CMS、サイト制作に興味がある方
- CMS 導入に向けて Drupal がどんなものか検討したい方
- WordPress や他 CMS は知っているが Drupal がどんなものか興味があ
る方
- 業務で Drupal を使用しているが、改めて Drupal について知りたい方

本書の読み方

一問一答の形式で、1つの項目は1ページに収まる程度に短くまとめました。
パラパラとめくって興味ある箇所から読み進めるもよし、1ページから順に読
み進めるもよし、という感じで好きに読んでみてください。

目次

まえがき	i
Drupal とは？	1
Drupal の特徴	2
すぐに使える標準機能	3
巨大なオープンソースコミュニティ	5
Drupal を利用している Web サイト	6
Drupal のユースケース	7
Drupal のあゆみ	9
WordPress との違い	11
Drupal とアクイアの関係	12
Drupal の認定試験とは	13
Drupal を手元で試すには？	15
もっと Drupal を知るには？	19
あとがき	21

Drupal とは？



PHP でできたオープンソースの **CMS** です！

2001 年にオープンソースプロジェクトとして公開された CMS (Content Management System) です。GPL のライセンスに基づいてソースコードが公開されており、誰でも無料でインストールして使い始めることができます。

世界中の 100 万もの Web サイトで利用されているといわれていて、NASA、オーストラリア政府、NASDAQ などの金融機関から、ネスレ、ファイザー、IBM などの巨大グローバル企業までが、Drupal を採用しています。

作者 Dries Buytaert (ドリス・バイタルト)

言語 PHP

ライセンス GPL v2 以降

初回リリース 2001 年 1 月 15 日

公式サイト <https://www.drupal.org>

ソースコード <https://git.drupalcode.org/project/drupal>

Drupal の特徴



インストールしてすぐに使える **CMS** ならではの手軽さと、
Web フレームワーク的な高い柔軟性を併せ持ちます！

Drupal は CMS として、HTML の知識無しにサイトを更新、管理するための優れた標準機能が用意されていますが、それを際立たせているのは高い柔軟性です。Drupal コアはモジュール性 (Modularity) を原則とした設計がなされており、優れたデジタル体験を創造するために必要となる多用途で構造化されたコンテンツを構築するのに役立ちます。

また、CMS の枠を超えてフレームワークとしての選択肢になり得ます。Drupal コアで足りない機能は、4 万個もの無料で公開された**モジュール**を自由に組み合わせることによって拡張できます。**テーマ**を使用することで、サイトの見た目をカスタマイズできます。特定の用途に合わせてモジュールとテーマをパッケージ化したものは**ディストリビューション**と呼ばれ、E コマース向け、メディアサイト向けなど多くのディストリビューションが公開されています。

これらのコンポーネントを組み合わせることによって Drupal コアを強化し、Rails や Laravel のような Web フレームワークで実装するような複雑なシステムまで Drupal でカバーできます。大規模会員サイトや社内情報ポータル、EC サイト、宿泊予約サイトの事例も多くあります。個人ブログから大規模な Web サービスまで幅広く活用できることも、Drupal の大きな魅力の 1 つです。

すぐに使える標準機能



標準機能に組み込まれた便利な機能が沢山あります！

公式サイトから Drupal をダウンロードしてセットアップしてみると、Web サイトを構築するための沢山の機能が標準で備わっていることがわかります。公式サイトから配布されるファイルを Drupal Core と呼び、それによって提供される機能をコア機能と呼んだりします。Drupal の標準機能を一部ご紹介します。

コンテンツタイプとフィールド

基本ページ（WordPress でいうところの固定ページ）、ニュース（時系列）などのコンテンツの種類とフィールドを定義することができます。

タクソノミーとボキャブラリー

タグなどのコンテンツを分類するためのボキャブラリーを定義することができます。

ユーザーとロール管理

細かなユーザー権限を管理できます。

Views

クエリビルダーツール。管理画面上でコンテンツの表示を操作できます。

メディア管理

コンテンツに表示する画像や動画を管理できます。

レイアウトビルダー

コンテンツを表示するためのレイアウトを簡単、迅速に作成できる直感的なビジュアルデザインツールです。

多言語機能

サイトを多言語展開する際に使用できます。

承認ワークフロー

コンテンツの承認ワークフローを自由に定義できます。

構成管理

Drupal の構成を YAML 形式でエクスポート・インポートできます。

キャッシング

動的コンテンツをキャッシュしてパフォーマンスを向上できます。

JSON:API

Drupal 内のコンテンツを Web API として扱うことができます。

巨大なオープンソースコミュニティ



Drupal は世界中の **130 万人** のコミュニティメンバーと **10 万人** の貢献者によって支えられています。

Drupal コミュニティは、世界でも最大級のオープンソースコミュニティの一つです。130 万人ものコミュニティメンバーによって様々な貢献が行われています。

「貢献」という言葉から、コードを書くことが真っ先に想像されると思いますがそれだけではありません。ミートアップ等の勉強会の企画、翻訳、バグ報告、ドキュメントの整備など、Drupal プロジェクトに貢献できることはたくさんあり、多くの貢献が行われているおかげで今なお Drupal が改善、進化し続けられています。

130 万人以上 Drupal.org のコミュニティメンバーの数

10 万人以上 貢献者の数

4 万個以上 公開されたモジュールの数

3,000 個以上 公開されたテーマの数

1,400 個以上 公開されたディストリビューションの数

3,000 人以上 DrupalCon の平均参加者数

Drupal を利用している Web サイト



様々な企業、組織が **Drupal** を活用しています！

世界では 100 万サイトが Drupal で動いている・・・とされています。Drupal を利用する Web サイトを一部ご紹介します*1。

金融機関

nasdaq.com - ナスダック
easternbank.com - Eastern Bank

政府・公共機関

nasa.gov - アメリカ航空宇宙局 (NASA)
nih.gov - アメリカ国立衛生研究所 (NIH)
new.mta.info - ニューヨーク地下鉄 (MTA)

小売・消費財

nestle.com - ネスレ
hermes.com - エルメス

医薬業界

astellas.com - アステラス製薬
pfizer.com - ファイザー
bayer.com - バイエル

テクノロジー企業

tesla.com - テスラ
ibm.com - IBM

大学・教育機関

gwu.edu - ジョージワシントン大学
tuj.ac.jp - テンプル大学ジャパンキャンパス
kyoto-u.ac.jp - 京都大学

*1 2022 年 3 月時点

Drupal のユースケース



グローバルコーポレートサイト、社内ポータルサイト、大学サイトなどのユースケースにマッチします！

具体的に Drupal がどういった場面で採用されているのか、鉄板ユースケースをご紹介します。

グローバルコーポレートサイト

大規模で高度なセキュリティが必要な企業のグローバル共通基盤として、多くのグローバル企業に採用されています。Drupal の標準機能である多言語機能と権限管理によって、世界中の現地法人でコンテンツ管理が行えるような柔軟な権限設計が行えます。

社内ポータルサイト

Drupal なら個々の従業員向けのパーソナライズされた体験を提供する機能を備えたポータルを構築できます。セキュリティを担保しながら社内の機密情報を安全に管理し、社内情報の検索を一箇所ですべて完結することが可能です。

大学サイト

姉妹校、学部、研究室など数百に及ぶサイトを Web ガバナンスを損なうことなく機能させるための「マルチサイト」機能が求められたり、出願や合格発表などのアクセス負荷や DDoS 攻撃などのセキュリティの脅威を軽減するためにセキュアで高パフォーマンスのプラットフォームが求められ、Drupal × アクイアが採用されるケースが多いです。

医療従事者向け会員サイト

コロナ禍において病院側による訪問規制が広がり、製薬業界各社は MR 活動をデジタルチャネルによるアプローチへと変更を余儀なくされました。そこで医療従事者向けの情報発信を行うプラットフォームを構築する事例が 2020 年

から急速に増えています。

トラフィックの多いメディア動画サイト

Drupal は負荷分散、高度なキャッシュなどのプレッシャー下でも十分なパフォーマンスを発揮します。NBC Sports ではアクイアの TAM(技術支援部隊) のサポートの下で、リオオリンピック開催期間中、ユニークユーザー 1 億人、動画の総ストリーミング数 33 億もの大規模アクセスを捌き、サイトの安定稼働を実現しました。

ヘッドレス CMS

さまざまな Web サイトやサービスのコンテンツを 1 つの場所で管理し、マルチチャンネルにデプロイ可能です。ニューヨーク地下鉄では、リアルタイムに運行情報をデジタルサイネージ、スマートウォッチなどマルチチャンネルに発信する仕組みを Drupal とアクイアで実現しました。通勤者にとって適切なデバイス、タイミングによるデジタル体験を促進しています。

Drupal のあゆみ



Drupal の 20 年の歴史を凝縮して紹介します！

2000 年、アントワープ大学の学生だったドリス・バイタルトは掲示板を備えたニュースサイトを立ち上げ、友人とのコミュニケーションに利用していました。これが Drupal の前身となり、2001 年にソフトウェアが公開されました。20 年もの長い歴史の一部始終をご紹介します*2。

- 2001 年 1 月** Drupal 1.0 リリース。18 個のコアモジュールが提供されていた。
- 2001 年 3 月** Drupal 2.0 リリース。22 個のコアモジュールと簡易的な翻訳システムが導入。
- 2001 年 9 月** Drupal 3.0 リリース。コンテンツの構成要素としてノード (Node) が導入。
- 2002 年 6 月** Drupal 4.0 リリース。タクソノミーシステムの導入。
- 2005 年 2 月** アントワープ (ベルギー) ではじめての DrupalCon が開催され、45 名の熱狂的な Drupal ファンが世界中から集結。
- 2005 年 8 月** Drupal コアと一部のコントリビュートモジュールのセキュリティ問題を解決する Drupal セキュリティチームが結成された。
- 2007 年 1 月** Drupal 5.0 リリース。jQuery の組み込み、インストールプロファイルと Web ベースのインストーラの導入。この頃に

*2 <https://drupalhistory.org/>

はコントリビュートモジュールの数が 2,500 個以上存在していた。

- 2007 年 11 月** アクイア社の設立。
- 2008 年 2 月** Drupal 6.0 リリース。多言語機能の追加、メニューシステムの刷新が行われた。
- 2009 年 10 月** ホワイトハウス (whitehouse.gov) で Drupal が採用。
- 2011 年 1 月** Drupal 7.0 リリース。使いやすさの向上、自動コードテスト、データベース抽象化レイヤの登場など様々な機能追加と改善が行われた。この時点で 11,000 以上のコントリビュートモジュールと 600 以上のコントリビュートテーマが存在。90 か国以上で 250 を超えるリリース記念パーティーが開催された。
- 2014 年 4 月** 日本初の DrupalCamp が京都で開催された。
- 2015 年 11 月** Drupal 8.0 リリース。Symfony コンポーネントが Drupal に導入され、アーキテクチャが大幅に刷新。またセマンティックバージョンングと新しいリリーススケジュールが導入され、6 ヶ月に一度機能アップデートが行われるようになった。
- 2020 年 6 月** Drupal 9.0 リリース。Drupal 8 から 9 への移行は、10 年で最も簡単なアップグレードと言われている。

WordPress との違い



小～中規模サイトに強い **WordPress**、大規模サイトに強い **Drupal**、と覚えてください。

オープンソース CMS というと、WordPress を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。WordPress は、Drupal と同じく、PHP で作られたオープンソースの動的 CMS です。無料のテーマやプラグイン（Drupal のモジュールに該当）が数多く公開されているなど、いくつかの共通点がありますが、Drupal と WordPress は市場の住み分けがされており、実は競合することは多くはないことがわかります。

ブログなどの小～中規模サイト

ブログシステムとして高い完成度を持つ WordPress は、小～中規模サイトでの利用が多数を占めます。シンプルで直感的なインターフェースは、初心者にとってフレンドリーであり、すばやく簡単にサイトを立ち上げることができます。

複雑性の高い大規模サイト

Drupal は元々、BBS（掲示板）システムから発展しました。抽象度の高いデータモデルを採用しており、拡張性の高いフレームワークとして機能します。コアはシンプルなので、適切なモジュールと組み合わせることで、オンラインショップ、フォーラム、Wiki システムなど、色んなアプリケーションに化けます。そのため、大規模で複雑性の高いシステムに多数の利用実績があります。

Drupal とアクイアの関係



Drupal の生みの親であるドリス・バイタルトがアクイアという会社を作りました！

ドリス・バイタルトが Drupal を OSS として公開してから数年、少しずつ企業での利用が増えていました。その背景から、エンタープライズでも安心して Drupal を扱えるように、Drupal のホスティングと有償サポートを提供する企業として 2007 年にアクイア (Acquia) が創業されました。

現在、アクイアでは Drupal に特化したクラウド PaaS 環境と開発ツールがセットになった「Acquia Cloud Platform」という製品で、お客様の Drupal サイトを安全に運用、サポートしています。

アクイアの日本法人であるアクイアジャパンは 2018 年に設立され、日本のエンタープライズ企業での Drupal 採用も徐々に増え始めています。

アクイアは企業として資金面、開発面で Drupal に積極的に貢献しています。Drupal 8 の上位 20 人の貢献者のうち 5 人がアクイアに所属しています。また、世界で唯一、Drupal 認定試験を提供しているのもアクイアです。

Drupal の認定試験とは



Drupal の知識を検証する世界で唯一の認定試験です！

Drupal 認定試験は[アクイア認定プログラム](#)^{*3}によって提供されます。資格取得の学習を通じて、段階的かつ網羅的に Drupal の専門知識を得ることが可能になります。認定試験は「Drupal」「Acquia Platform」のトラックに分類されており、Drupal トラックの試験は次の 4 つがあり、日本語で受験できます。資格合格者は、[Acquia Certification Registry](#)^{*4}に名前が掲載されます。

アクイア認定サイトビルダー

コアモジュール、コントリビュートモジュールを使用して Drupal サイトを構築するプロフェッショナル向けの資格です。

アクイア認定デベロッパー

基本的なウェブ概念、サイト構築、フロントエンド開発（テーマ作成）、バックエンド開発（コーディング）の分野において、Drupal 開発者としてのスキルや知識の検証を目的としています。

アクイア認定フロントエンドスペシャリスト

フロントエンド開発（テーマ作成）の分野における Drupal 開発者のスキルや知識の検証を目的としています。

アクイア認定バックエンドスペシャリスト

バックエンド開発（コーディング）の分野における Drupal 開発者のスキル

^{*3} <https://www.acquia.com/jp/support/training-certification/acquia-certification>

^{*4} <https://certification.acquia.com/registry>

や知識の検証を目的としています。

Drupal 試験のうち、アクイア認定デベロッパー、アクイア認定フロントエンドスペシャリスト、アクイア認定バックエンドスペシャリストの3つの試験に合格すると、受験者は自動的に **Acquia Triple Certified Drupal Expert** として認定され、高い技術力をアピールできます。

Drupal を手元で試すには？



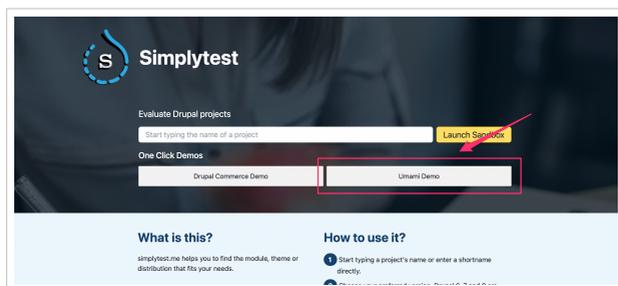
簡単に Drupal が試せます！

Drupal を動かすには、データベース、PHP、Web サーバーが必要です。Drupal を実際に触ってみたい！ という方に向けて、Drupal を手元でサクッと試す方法をご紹介します。

非エンジニア向けの方法

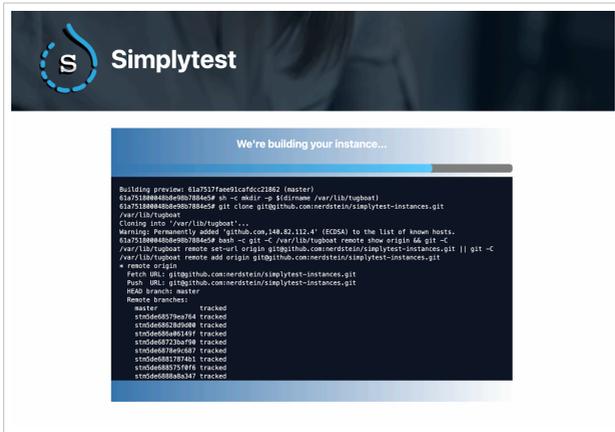
黒い画面（ターミナル）を使わず、無料で自分だけの Drupal サイトを用意する方法をご紹介します。Simplytest.me^{*5}というサービスを使用します。

Simplytest.me にアクセスしたら、画面中央の「Umami Demo」をクリックするだけです。



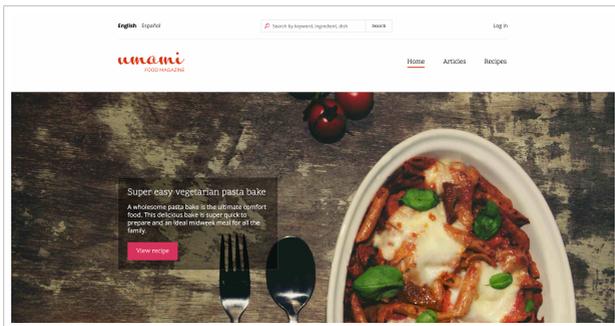
▲ 図 1: Simplytest.me の画面

*5 <https://simplytest.me>



▲ 図 2: 起動中画面

数分待つと、Drupal のデモサイトが起動します。画面右上の「Log in」ボタンから、Username に **admin**、Password に **admin** で管理者としてログインすることができます。



▲ 図 3: Simplytest.me で起動した Drupal デモサイト

Simplytest.me とは？

Simplytest.me は、Drupal のモジュール、テーマ、ディストリビューションなどの drupal.org プロジェクトを評価するためのサンドボックス環境を提供するオンラインサービスです。会員登録等は不要で、無料で

Drupal を試すことができますが、起動してから 12 時間で自動的に環境が消去されます。

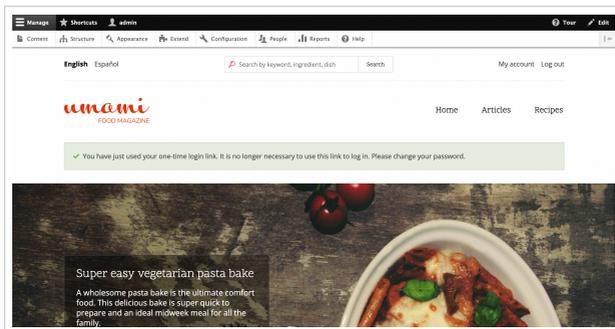
.....

エンジニア向けの方法

Drupal のローカル開発環境の構築方法として、Docker、Lando、DDEV といったツールを用いる方法もありますが、ローカル環境に PHP と Composer があればターミナルで Drupal をダウンロード、起動できます*6。次のコマンドを実行してみてください。

```
$ composer create-project drupal/recommended-project drupal
$ cd drupal
$ php -d memory_limit=256M web/core/scripts/drupal quick-start >
\  
demo_umami
```

起動に成功したら、<http://127.0.0.1:8888> から Drupal のデモサイトにアクセスできるようになります。



▲ 図 4: コマンドで起動した Drupal デモサイト

コマンドを実行したターミナルには、ローカルサーバーの URL や管理者アカウントのログイン情報が出力されていることがわかります。

*6 <https://www.drupal.org/download>

もっと Drupal を知るには？



Drupal を学ぶための様々な日本語コンテンツがあります！

初心者向け Drupal ハンズオンで学ぶ

初心者・非エンジニア向け **Drupal ハンズオン** - Drupal をノンコーディングで、2 時間でゼロからモダンなウェブサイトを構築する過程を体験できる動画です。ハンズオン実施にあたり、事前準備や Web 開発の知識は一切不要です。黒い画面（コマンドプロンプト）も出てきませんので、非エンジニアの方でも安心して実施いただけます。



<https://www.acquia.com/jp/drupal-handson>

Drupal 入門書籍で学ぶ

Drupal 9 Web 開発ことはじめ - Drupal 9 に対応した初心者向け Drupal 解説本です。CMS サイト構築（フロントエンドまたはバックエンド）を手がけている Web デザイナーやエンジニアの方、WordPress の他にも便利な CMS は無いか探している方に向けた 1 冊です。



<https://www.amazon.co.jp/dp/B0922326NR>

網羅的に学ぶ

アクイア認定サイトビルダー試験対策講座 - 「アクイア認定サイトビルダー - Drupal 9」試験の出題範囲を網羅した、全7回の試験対策講座（動画）です。試験合格を目指す方はもちろん、Drupal を体系的に学びたい方にもおすすめです。



<https://www.acquia.com/jp/prep-for-exams-site-builder>

あとがき

「Drupal まるわかりハンドブック」いかがだったでしょうか？ このあとがきを読んでいる頃には「なんとなく Drupal がわかるようになる」状態になっていたら、本書が無事、目的を果たせたことになります。そうなっていたら嬉しいです。

本書で取り上げた内容は、Drupal のほんの序章に過ぎません。これから Drupal を始めたい、もっと知りたい方をアクイアは全力で応援します。

アクイアについて

Acquia（アクイア）はオープンなデジタル体験プラットフォームを提供することで、組織がウェブサイトやデジタルアプリケーションを通じて大規模なスケールで顧客とのコミュニケーションを構築、ホスト、分析、コミュニケーションを行うことを可能にします。信頼されるオープンソースのリーダーとして、最新技術を提供し、CX リーダーのためのより良いビジネス成果を生み出しています。オープンソース CMS である Drupal を商用サービスとして提供している他、MA ツール、CDP（カスタマーデータプラットフォーム）サービスを展開しています。

アクイアでは定期的にウェビナーやブログを通して Drupal やアクイア製品に関する情報発信を行なっています。最新情報は Twitter や Facebook をご覧ください。

公式サイト	https://acquia.com/jp
イベント・ウェビナー	https://www.acquia.com/jp/events
ブログ	https://www.acquia.com/jp/blog
Twitter	https://twitter.com/AcquiaJP
Facebook	https://www.facebook.com/AcquiaJP

■免責

本書は情報の提供のみを目的としています。本書の内容を実行・適用・運用したことで何が起きようとも、それは実行・適用・運用した人自身の責任であり、著者や関係者はいかなる責任も負いません。

■商標

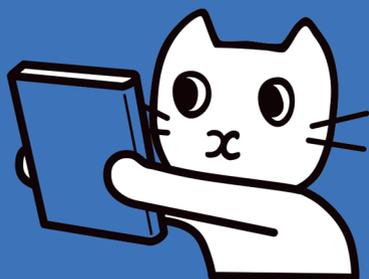
本書に登場するシステム名や製品名は、関係各社の商標または登録商標です。また本書では、™、®、©などのマークは省略しています。

オープンソース CMS Drupal まるわかりハンドブック

2022年4月1日

編集・発行 アクイアジャパン合同会社
イラスト まりゐ（白菜堂）

© 2022 Acquia, Inc.



編集・発行 アクイアジャパン合同会社
acqua.com/jp